

## HOW TO MAKE HAIKU

### はいく 俳句のつくりかた



©JAL Foundation

飛世わ  
ん界た  
で中し  
いあの  
つつち  
たこん  
ちポ  
にポ

*My golden  
dandelion  
Has flown asunder  
All over the world*

Inna Yegaj, Age 5, female  
Russia (2008)

わ風風  
くにが  
わ吹好  
くかき  
しれる  
ちると  
う

*I adore the wind  
It makes me feel excited  
When it blows at me*

Guy Peppiatt  
Age 6, male, UK (2008)



©JAL Foundation

### 俳句ってなに?

日本で生まれた小さな文芸「俳句」（はいく）は、初めは、単純な「ことば遊び」と見られていました。この「俳句」を芸術にまで高めたのが、松尾芭蕉（まつおばしょう 1644-1694年）です。

伊賀上野（現在の三重県上野市）の貧しい武士の家に生まれた芭蕉は、幼いころより俳句を学び、29歳のとき、江戸に下りました。当時の江戸はユーモアやことば遊びの入った句が流行していましたので、芭蕉も自分の句によく取り入れました。

江戸の郊外であった深川に草庵（\*1）をうつした1680年ごろから、芭蕉は俳句にもっと深い意味をつけ始め、「わび」（\*2）をうたいこみ、俳句を芸術にまで高めました。

その後（明治時代）、正岡子規（1867-1902年）が「俳句は文学なり」と発表し、俳句は日本の代表的な詩と認められるようになりました。

俳句とは、詩人／よみ手の心や意識の中の瞬間を切り取ったもので、時の流れをとめ、そこから想像豊かに作っていく「詩」です。自然、色、季節、対象（\*3）、驚きを主題にして、人間をふくめた自然への深い気持ちを持ちながら作ります。そして、わずか3行の短い詩が、さまざまな思いがこめられた世界をつくりだすのです。人間が自然の一部であり、自然とともに生きるという、日本的な伝統に息づいているのが俳句なのです。

\*1「草庵」：草で作った粗末で小さな家

\*2「わび」：俳句の理想の境地として求める質素で落ち着いた雰囲気

\*3「対象」：見るもの、聞くもの、目標となるもの、など

*A long dark night  
Full of whistling wind  
No moon*

Ana Sirnik  
age 12, female, Slovenia (2008)

暗月風  
くもヒ  
長出ユ  
いーヒ  
ないユ  
夜いユ  
ー



©JAL Foundation

©JAL Foundation

## 俳句のかたちは？

俳句のかたち（形式）は単純です。5-7-5で、3行に分かれる17の音（17音節）できています。これで短い・長い・短いの形式ができあがります。

この形式を守れば、誰でも俳句を作ることができます。韻をふむ（\*1）が必要がないのも、俳句の特徴です。

俳句を作るとき、一番大切なことは「何を象徴するか」です。”象徴”とは、思っていることや見たり聞いたりしたことをそのまま言い表すのではなく、ほかの物やことばで指ししめすことです。ですから、俳句では簡単なことばを使っている一方で、多くの意味をふくんでいて、とてもおくが深いのです。

俳句は、見たり聞いたりしたことの詳しい説明ではありません。細かいところまで写しだす写真ではなく、絵をかくようなものなのです。

ことばが少ないほうが、その俳句を読んだ人は、自由に自分のイメージを持ったり感じたりすることができます。

\*1「韻をふむ」：詩の行のはじめや終りに、同じ音のことばを置くこと



Hold On  
Playful spring breezes,  
Sorry little ladybug,  
Hold on to the stem.

Playful spring breezes  
Sorry little ladybug  
Hold on to the stem

Keoho Bryant  
age 8, male, USA (2008)

してい  
つんた  
かかず  
りうら  
茎むな  
へし春  
はのか  
か風  
にわい  
つかま  
う  
て

## 俳句って、すばらしい

俳句から感じたり思ったりすることは、それを読んだ人によってちがってきます。そのため、俳句を読むためには、その国の文化を理解することが大切です。さまざまな表現や感情にふれることができ、俳句は、まさに国境をこえて、人々の共通のコミュニケーションを図る道具であるといえます。

俳句を作り、読むことは、楽しみや美しいと感じたことを伝えるだけでなく、異なる国や文化の人々と、お互いにわかりあうきっかけとなるでしょう。

## いっしょに絵もかいてみよう

俳句を作ったら、その俳句をもとにして絵を描（か）いてみましょう。上手に描けなくてもいいのです。ただ、自分の心や頭にうかんだことや気持ち、見たり聞いたりしたことを表現すれば良いのです。

色えんぴつ、水さい絵の具、クレヨンでも良いですし、エンピツで色黒の絵を描いてもいいでしょう。

右の絵は、タイのヌチャナード（12才、女の子）が自分の俳句と一緒に描いたものです。

やさしい風  
稲穂（いなほ）がゆれる  
水牛の背のこちよさ

ヌチャナードは自分のいつもの生活を表現するために、簡単でわかりやすいことばを使っています。この絵は、ヌチャナードが毎日見ている水田のようすや、水牛の背ののっているところを描いています。

2年に一度、世界中のこどもたちが自分の俳句と絵を送ってくる「世界こどもハイクコンテスト」が開催されていますので、あなたも俳句と絵をぜひ送ってください。



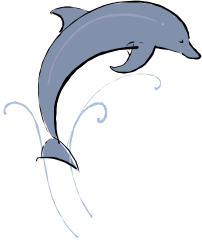
水稲や  
牛穂さ  
のがし  
背ゆれ  
風この  
ちよさ

Wind gently sweeps the field  
Protruding rice ears bow along  
Buffalo ride cools me down

Nutchanard Wongsricha  
Age 12, female,  
Thailand (2008)

俳句はどうやってつくるの？

俳句の約束 その1 : 春夏秋冬



俳句は、人々のまわりをとりまく環境についてよく考えさせたり気づかせたりするので、人間と自然を強く結び付けているといえます。伝統的に、俳句は必ず「季語」(\*1)を持ちます。

俳句に出てくるのは、人の命の短さ、動物、虫、木や花、山、月、日の出、雨、雪など、生き物や自然のできごとで、季節を指ししめすことばが入っています。

たとえば、「冷たい月」は冬の季語、「桜」は春、「ホタル」は夏、「かえでの葉」は秋の季語です。季語は日本文学の伝統的な特徴で、それは日本人が季節を感じることを大事にしているからです。

「季語」が入っていることで、より深く人々の心に情景や感動が伝わります。

芭蕉も、自然と人間のかかわりについて言っています。

「松について語るため、ひとつになれ。」

\*1「季語」：四季をあらわすために、俳句に入れるように定められたことば



俳句の「季語」を集めたものが「歳時記(さいじき)」(季語の辞書)です。もちろん、国によって季節は異なるので、季節をあらわす「季語」も異なります。季節のうつり変わりなど、自分のまわりをよく見て季語をさがすことが大切です。

下のデイル/Daleの俳句には夏の季語があります。たとえば、「暑い太陽」や「波のり/サーフィン」です。「波のり/サーフィン」ということばは、オーストラリアの人々が、夏にどんなことを楽しんでいるかを伝えています。

デイルは「夏」ということばを使っていませんが、俳句を読んだ人は、いつの季節のことなのか、わかります。これが、「季語」のすばらしいところです。



*Under the hot sun*

*I am surfing on the waves*

*With my dolphin pals*

Dale Jasch, age 11, male, Australia

暑い太陽の下

ぼくは波乗りを楽しむ

イルカの友達と一緒に

右下のマーク/Markの俳句では、生き物である「かえる」がでてきます。「かえる」は春の季語です。「光り」や「流れ」も明るくて幸せなふんい気を伝えることばです。

ことばはその俳句のイメージやふんい気を決めるので、気をつけて選びましょう。

マークはきっと、川の流れで楽しく遊んでいるかえるを発見したのでしょう。



滝(たき) がきらっと光り  
かえるを流れに飲み込んだ  
はずの葉まで連れて行った

*Waterfalls glitter  
And swirl the frogs down the stream  
To the lily pads*

Mark Rokitka, age 11, male, USA

こんどどこに気をつけて .....



次の俳句は対象を「見ている」だけでなく、対象を「感じている」のでしょうか。たとえば、ブラエドン/Braedonは実際に花の蜜をすったことはないかもしれませんが、「甘い」と言っています。

「蝶」や「ばら」、「甘い蜜」ということばが入っているので、「春」と言わなくても、俳句を読んだ人はいつの季節か、すぐにわかります。ブラエドンの俳句は簡単ですが、読む人は、とてもどかで平和な風景を思いえぐることができます。

*The butterfly comes*  
*Descending to the wild rose*  
*Tasting sweet nectar*

蝶が来て  
野ばらにとまろうとする  
甘い蜜をすいに

Braedon Stenson, age 9, male, Canada



次のクリスチエン/Christianの俳句には、驚きがふくまれています。

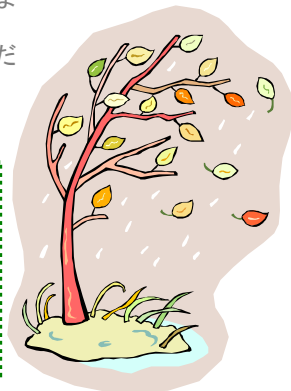
クリスチエンは「葉っぱが落ちて、もうひとつの葉っぱのとなりを下りた」とは言いません。反対に、俳句を読んだ人は、もう一枚の葉っぱがあるとは思っていませんでしたから、かえって、この俳句が強く印象にのこります。

この俳句の終りで「いきなりふたつになった」となっているので、これを読んだ人は、すっかり秋の風景が思いうかんだことでしょう。

葉っぱが木から落ちてきた  
通りをすいすい進む  
いきなり2つになった

*A leaf falls off the tree*  
*Sailing to the street*  
*Suddenly they're two*

Christian Gunther, age 10, male, Germany



ネラ/Nelaも同じように自分の俳句のイメージを語ります。「冬で寒いから窓辺に霜がおりている」のではなく、「レース」ということばを使っているので、きれいな飾りを思い出させ、読む人は白くて美しい冬景色を思いうかべるでしょう。



*A beautiful lace*  
*On our window*  
*Woven by winter cold*

窓辺にかかった  
美しいレース  
冬の寒さで編まれた

Nela Zorko, age 12, female, Slovenia

これらの俳句を通してわかることは、「説明が多すぎるとよくない」ということです。簡単でありながらも、きれいなことばを使うと、読んだ人の心や頭にもきれいなイメージがうかんでくるでしょう。

ある季節を対象にする場合、その季節の名（春、夏、秋、冬）をそのまま使うのではなく、その季節にあなたが見たり、聞いたり、感じたりしたことを「ことば」にして使いましょう。

最初はむづかしいかもしれませんが、楽しみながら努力すれば、きっと、すてきな表現ができるようになるでしょう！



俳句の約束 その2 : 自分の世界や、こころをうつし出そう

俳句は人間と自然を結びつけるだけではなく、物事をはっきり見て、語る方法でもあります。俳句はとても短い詩です。俳句を読んだ人が、作った人の感動した瞬間や強く心に残ったことを、少ないことばで感じ取ることができるように作ることが大切です。

©JAL Foundation



空がやさしく  
おん話し雲に  
はいる楽しそ  
うたい

良い俳句を作るためには、対象（主題）をはっきりさせて、正しく具体的でわかりやすいことばを使うことが大切です。

なぜなら、俳句は、読む人の感じるところをよびおこし、印象を作りだすからです。

良い俳句は、読んだ人に、まるで直接見たり、聞いたり、さわったり、味わったりしたような気持ちにさせることができるのです。

俳句は客観的なものであると思われています。つまり、できごとや感じることを、外からながめて表現していると言われることがあります。

しかし、よい俳句は読んだ人を感動させて、いろいろな感情をよびおこします。

さみしさのような重くて暗い感情のときもあります。が、美しさを感じたり喜びや幸せを感じたり、またユーモアを感じたりすることもあるでしょう。この感情は、説明されるから感じるのではなく、使われたことばから、イメージや印象として伝わるものです。

*Gently the breezes move  
Masses of fluffy clouds enjoy the float  
Celestial tell-tale enjoyed down below*

Pruksachart Pratoomnan  
Age 10, female, Thailand (2008)

*Close-eyed Dad laid still  
Mom and I hugged him tightly  
He breathed his last*

Ekaparb Uawisaswathana  
Age 12, male, Thailand (2008)



父私ま  
のとぶ  
最母た  
期はを  
のし閉  
息っ  
だか  
り動  
た抱か  
いぬ  
た父  
を

暴れん坊の風  
いじめっ子みたい  
押されて家までついちゃた



*Like school bully  
Wrestling me to my home  
The tough wind pushes*

Claudia Sanchez, Age 11, female, USA (2008)

ガラ  
空ガラ  
きラ  
缶と  
を音校  
転を庭  
がたの  
すて風

*It's rattling heavily  
In the schoolyard  
The wind drives the empty can*

Tobias Bockmann, Age 11, male, Germany (2008)

こんどころに氣をつけて .....

次の俳句のように、感情をそのまま「ことば」にしてしまうのではなく、ほかのことばで伝えることも大切です。

たとえば、Daniel/ダニエルの俳句を読むと、さみしさの感情を強く感じます。読者は、最初はダニエルが「混乱した感情」や「思い出が抱き寄せる」と言っているのがどういう意味か、よくわからないでしょう。

しかし、最後の行の「棺おけ」ということばで、ダニエルが何を言いたいのか、ショックとともにわかります。この俳句では、最後の行が効果的です。



入り交じった感情がうずまき  
思い出がぼくのたましいを抱き寄せる  
棺おけがさげられた

*Mixed emotions swirl  
Memories embrace my soul  
The casket lowers*

Daniel Wood, age 12, male, New Zealand



ヒュー  
おヒュー  
ひュー  
さー  
まー  
と  
花さ風  
ひし吹  
らこい  
くみて

*The winds are howling  
Piercing sunshine bring daylight  
Flora blossoming*

Fathatunnur Asyiqin bt.Khairul Anuar  
Age 11, female, Malaysia (2008)



©JAL Foundation

次の俳句は、驚きもユーモアも入っている点で、とても良く書けています。2行目が楽しく、期待があふれているふんい気を作っています。そして3行目では、トラ狩りをしに行ったターザンが、意外なものを獲物として持ち帰ってきます。

この3行目の意外性が、すばらしいのです。読んだ人は、きっと強く心に残るでしょう。

*One two three four five  
Tarzan went on a tiger hunt  
Came back with a mouse*

Shen Hua Quiang, age 12, male, Singapore

1, 2, 3, 4, 5  
ターザンはトラ狩りに出かけた  
ねずみを一ぴきつかまえて帰ってきた

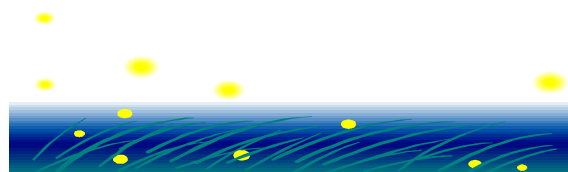


数え切れないホタル、ホタル、ホタル…  
ランタンをさげて野原をさまよう  
迷子(まいご)になった船乗りたち

*Countless fireflies  
Hang across an endless field with lanterns  
Sailors have lost their way*

Gianluca Sordi, male, Italy

左の俳句は、自然の観察がよくできています。ホタルたちが、光りながら飛んでいる姿を、迷った船員のためにランタン（あかり）を持って、帰り道を照らしていると想像しているのです。



### 俳句の約束 その3 : 「時」をつかまえる



現代の高スピードの世界にあって、俳句はリラックスして自分の人生を考える、ひとつの方法です。

芭蕉によると、「俳句とは、その瞬間、その時間、その場所で行っていること」であり、最も良い俳句とは、今の自分の経験に基づいているものです。



私は雪の吹き寄せが  
地面に落ちているのをながめている  
そして自分がやったことを考える

*I watch the snowdrift  
Fall to the ground I think of  
The things I have done*

Hannah Ferguson, age 10, female, Canada



記憶や想像をもとにして俳句を作る人もいますが、本当にすなおな、良い俳句とは、たとえ一部分であっても、自分の経験（じっさいに見たり聞いた、感じたりしたこと）から生まれます。



家 た  
族 た  
は き  
ど つ  
こ 木  
か の  
に 上  
に 雨  
行 で、  
つ 吹  
ふ き  
て る  
し え  
す  
ま る  
さ  
ま っ  
ポ ぶ  
た ク  
風

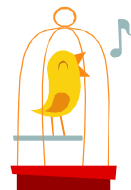
*Rainstorm and strong cold wind  
Sent me up shivering on a big branch  
My family has gone.*

Kittamet Thongchom, age 12, male, Thailand (2008)

©JAL Foundation

良い俳句をつくるために、目を大きく見開き、物事をよく見ましょう。  
よく見よう、よく聞こうとすると、今まで気づかなかったことが見えたり聞こえたりして、それが、驚きや生き生きした気持ちを感じさせます。そして、毎日の生活に感謝したり感動したりすることにつながります。

俳句をつくるには、驚かせようとかショックをあたえようとするのではなく、そこになにがあるのか、よく見て感じましょう。

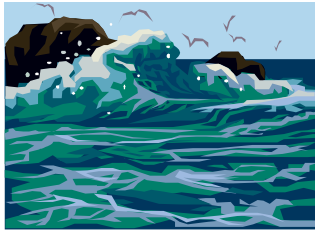


こんなところに気をつけて .....



次の3人は俳句をとおして、自分の経験を表現しています。  
ナー／Naは海辺に立って、波の音を聞いていたときのことを俳句にしています。

でも、ナーは「波は音楽だ」と言っていません。俳句を読んだ人がわかるように、さりげなく、「音楽会」ということばを選んで、俳句を作っているのです。



*The sound of the waves  
A concert to be held  
On the ocean floor*

波の音  
海辺で開く  
音楽会

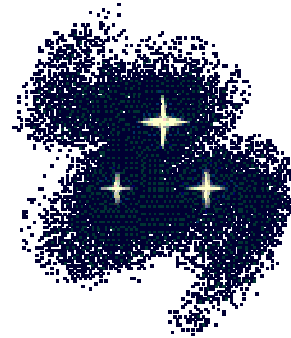
Na Young Moon, age 12, Korea

アレックス／Alexはたぶん流れ星を見たのでしょう。  
その流れ星を、星がいっぱい集まっている天の川から  
「逃げたい」のかな、と思って、俳句を作っています。

*Shooting star  
Longs to see the world  
Outside of the Milky Way*

Alex Malot, age 13, male, France

離天流  
れのれ  
て川星  
みかは  
たら  
い  
んだ



これらの俳句を読んでも、自分が見たり聞いたり感じたりしたことをもとに、作ればいいのだということがわかります。説明するのではなく、簡単に、生き生きしたことばをつなげてみましょう。

下の俳句は、対象（今見えているもの）をくわしく説明せずに、俳句を読む人に想像させています。みんなが知っていることは、説明しなくてもいいのです。たとえば、トンボの形や、目が大きいことは、だれでもわかります。対象のなに／どこに感動したのか、その特徴を表現するようにしましょう。



*Reflection in  
The eyes of the dragonflies  
Andromeda*

トンボの目  
アンドロメダを  
映している

Natsuki Toyokawa, age 12, male, Japan

## いつでも俳句をつくってみよう

### 一日のなかで

すばらしい俳句が、とても小さな、つまらないできごとから生まれることがあります。たとえば、あなたの毎日から。

6人の家族がいても、何千人もいる大きな町で暮らしていても、あなたの生活や経験（見たり聞いたり感じたりしたこと）は、あなただけのものです。あなただから、それを表現できるのです。

俳句は、外国の人々に自分の国や生活について伝えることのできる、ひとつの方法です。世界中の人たちは、あなたの俳句を読むと、あなたの生活や身の回りのこと、感じていることなどがわかるのです。

家族、学校、家のまわり、しゅ味、ペット、お庭のこと…。考えてみると、俳句の主題はかぞえ切れません。

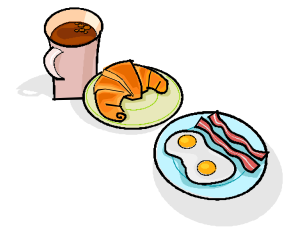
いろいろと、観察してみましょう！



### 朝がきたら…

毎朝、あなたは起きたら何をしますか？ どんな一日をすごすのでしょうか？ 楽しい一日でしょうか？ がっかりしたのでしょうか？ だれと一緒に、どこに行きましたか？

くわしく説明しなくてもいいのです。ただ、1日の生活のなかで、とくに思ったこと、感じたこと、見たり聞いたりしたことを、ことばにして、つなげてみましょう。



### 夜になったら…

住んでいる国がちがうと、夜の風景など見えるものも、ちがってきます。

空は星でいっぱいですか？

まっくらで、こわくて外に出られないでしょうか？

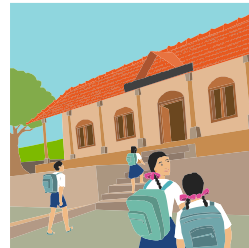
夜はどんなふうに、すごしますか？



### 一週間のなかで…

月曜日から金曜日まではいそがしくて、何をしたか、わすれてしまうこともあります。きのうのことでも、ちいさなできごとは思い出せないこともありますね。

俳句をつくるときには、まわりのできごとをよく観さつするので、ふつうならわすれてしまうことも、心にのこります。俳句には、できごとや感じたことをわすれさせない力があるのです。



### 土曜日や日曜日は…

土曜日や日曜日は一週間のうち、だれでも一番好きなのではないでしょうか？

家族と旅行したこと、友だちと遊んだこと、ころんでけがをしたこと、犬とさんぼしたこと、本を読んだことも、俳句になりますよ！



### お正月からクリスマスまで…



お正月、ひなまつり、春休み、夏やすみ、運動会、学芸会、クリスマス…季節とともに、いろいろなイベントがあります。また、新学期がはじまると、教室がかわたり、新しい友だちができたりしますね。

そんなときは、うれしい気もちや、おどろいたことなどをわすれないように、俳句をつくってみましょう。

### 夏の暑い日には…



「夏」といわれたら、あなたは何を思い出しますか？  
夏で一番好きなのは、何ですか？ すいかや、アイスクリームで  
しょうか？  
海や川で遊ぶことでしょうか？



### 冬の寒さのなかで…

あなたの住んでいるところは、冬は寒いですか？  
雪がふりますか？  
あなたは、冬のスポーツをしますか？  
冬の食べもので、いちばん好きなのは、なんですか？



All rights reserved for PDF contents and drawings remarked.  
Copyright ©JAL Foundation